

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大川学園医療福祉専門学校
設置者名	学校法人大川学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	柔道整復学科	夜・通信	240時間	240時間	
	柔道整復学科	夜・通信	240時間	135時間	
専門課程	介護福祉学科	夜・通信	180時間	160時間	
		夜・通信			
(備考) 柔道整復学科は1,2年生が新課程、3年生が旧課程となっている。また夜間部は3年生のみ設置。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ohkawa.jp/情報公開/修学支援の情報/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大川学園医療福祉専門学校
設置者名	学校法人大川学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.ohkawa.jp/情報公開/学園の情報/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元本校職員	H29.9.4～ R3.9.3	外部情報を踏まえた 経営への助言
非常勤	会社役員	H29.9.4～ R3.9.3	外部連携等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大川学園医療福祉専門学校
設置者名	学校法人大川学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業科目に基づき、適切な指導を行える教員を配置し、前・後期や通年の授業の流れを資料・教科書を元にしながら授業計画(シラバス)を作成していく。</p> <p>学生が各授業科目の準備学習等をスムーズに取り組めるよう講義目的、授業内容、使用教材、評価基準、各回の授業内容の詳細と使用教材・物品を記した授業進行表、実務経験のある教員による授業科目についてはその旨を記載したシラバスを各科目担当者が策定し、その内容を教務主任が精査している。</p> <p>前年度末(3月末)までに各科目担当者によるシラバスの策定及びシラバスのホームページでの公表を行う。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.ohkawa.jp/情報公開/修学支援の情報/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学生の平素の成績及修了試験並び出席日数を総合評価して科目担当者が科目履修の認定を行っている。授業日数の3分の2以上の出席及び各科目において60点以上の評価点をとるという基準に沿って厳正に履修認定を実施している。なお、80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」、59点以下の評価点に「D」(履修認定不可)という成績評価を与えており、科目の欠席時数が授業時数の3分の1を越えた者は、その科目の履修を認めない。</p> <p>上記の成績評価の方法・基準については学則施行細則としてあらかじめ定められており、また学生に対してはシラバスにより、この成績評価の方法・基準を示している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では成績の客観的評価を算出することで学生が自らの学業成績の状況を的確に把握できるよう、GPA という客観的指標を用い成績評価を行っている。GP に該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目 1 単位当たりの成績平均点を算出している。具体的に本校では、科目の評点 100～80 点を GP3.0、79～70 点を GP2.0、69～60 点を GP1.0、59 点以下を GP0.0 に換算する方法にて GPA を算出している。</p> <p>GPA 算出式は $(\text{対象学年における各科目の GP} \times \text{単位数の合計}) \div \text{対象学年において履修した総単位数}$ とあらかじめ設定しており、上記算出方法についてはホームページに公表している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.ohkawa.jp/情報公開/修学支援の情報/
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(柔道整復学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> (Ⅰ) 本学の校訓である「自律・協調・奉仕」の精神を深く体得すること (Ⅱ) 医療人として不可欠である責任感、倫理観、誠実さ、熱意を有していること (Ⅲ) 医療の現場において柔道整復師としての役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を有していること (Ⅳ) 柔道整復師として身につけるべき柔道整復術、医療に関する専門知識及び技術の修得を達成すること <p>以上をディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）とする。</p> <p>達成状況については卒業判定基準によって判定する。①各科目の授業日数及び総実施授業日数の 3 分の 2 以上の出席、②各科目の総合評価点が基準点（60 点）以上であること、③卒業試験の得点が国家試験判定基準を満たしていること、④原則、当学年の学費が完納していることが卒業判定基準の内容であり、この基準に沿って職員会議の議を経て、厳正に卒業判定を実施している。</p> <p>(介護福祉学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> (Ⅰ) 本学の校訓である「自律・協調・奉仕」の精神を深く体得すること (Ⅱ) 福祉人として不可欠である責任感、倫理観、誠実さ、熱意を有していること (Ⅲ) 介護の現場において介護福祉士としての役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を有していること (Ⅳ) 介護福祉士として身につけるべき介護技術、福祉に関する専門知識及び技術の修得を達成すること <p>以上をディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）とする。</p> <p>介護福祉士として身につけるべき介護技術及び福祉に関する専門知識及び技術修得の達成を卒業認定の方針とする。達成状況については 2 年間の成績を基に卒業判定基準によって判定する。①各科目の授業日数及び総実施授業日数の 3 分の 2 以上の出席、②各科目の総合評価点が基準点（60 点）以上であること、③卒業試験の得点が国家試験判定基準を満たしていること、④原則、当学年の学費が完納していることが卒業判定基準の内容である。また、2 年次の後期に行う学力評価試験の合格（必須）点をクリアしているかを確認し、この基準に沿って職員会議の議を経て、厳正に卒業判定を実施している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.ohkawa.jp/情報公開/修学支援の情報/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大川学園医療福祉専門学校
設置者名	学校法人大川学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ohkawa.jp/情報公開/学園の情報
収支計算書又は損益計算書	https://www.ohkawa.jp/情報公開/学園の情報
財産目録	https://www.ohkawa.jp/情報公開/学園の情報
事業報告書	https://www.ohkawa.jp/情報公開/学園の情報
監事による監査報告（書）	https://www.ohkawa.jp/情報公開/学園の情報

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	柔道整復学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2760 単位時間	1620 単位時間	単位時間 /単位	180 単位時間	単位時間 /単位	960 単位時間
			2760 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150人		50人	0人	6人	12人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業科目に基づき、適切な指導を行える教員を配置し、前・後期や通年の授業の流れを資料・教科書を元にしなから授業計画（シラバス）を作成していく。学生が各授業科目の準備学習等をスムーズに取り組めるよう講義目的、授業内容、使用教材、評価基準、各回の授業内容の詳細と使用教材・物品を記した授業進行表、実務経験のある教員による授業科目についてはその旨を記載したシラバスを各科目担当者が策定し、その内容を教務主任が精査している。前年度末（3月末）までに各科目担当者によるシラバスの策定及びシラバスのホームページでの公表を行う。
成績評価の基準・方法
（概要）学生の平素の成績及び修了試験並び出席日数を総合評価して科目担当者が科目履修の認定を行っている。授業日数の3分の2以上の出席及び各科目において60点以上の評価点をとるという基準に沿って厳正に履修認定を実施している。なお、80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」、59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）という成績評価を与えており、科目の欠席時数が授業時数の3分の1を越えた者は、その科目の履修を認めない。上記の成績評価の方法・基準については学則施行細則としてあらかじめ定められているものである。
卒業・進級の認定基準
（概要）各科目の授業日数及び総実施授業日数の3分の2以上の出席、各学年で修得すべき各科目の総合評価点が基準点（60点）以上であること、加えて卒業判定については卒業試験の得点が国家試験判定基準を満たしていること等が卒業・進級判定基準の内容であり、この基準に沿って職員会議の議を経て、厳正に卒業・進級判定を実施している。
学修支援等
（概要）通常の授業以外に、学生への綿密な生活・学習指導を行うためのクラス担任制度、国家試験合格に向けた授業外の補習授業、就職活動を支援するための職域担当職員の配置等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	6人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 病院、接骨院			
(就職指導内容) 個人面談、就職ガイダンス、面接練習指導等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師、JATI 認定トレーニング指導者資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	11人	20.8%
(中途退学の主な理由) 体調不良、進路変更、仕事の都合等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 長期欠席者及び成績不良者には、補講時間を定め、練習問題のプリントを中心とした補講授業を行うとともに、学科長及び担任を中心として三者面談を行い、日常生活を見直す機会を設け、学習状況を調査した上で、学生と共に解決策を導くように心掛けている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	柔道整復学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	2490 単位時間	1640 単位時間	単位時間 /単位	90 単位時間	単位時間 /単位	760 単位時間
			2490 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	13人	0人	6人	12人	18人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 授業科目に基づき、適切な指導を行える教員を配置し、前・後期や通年の授業の流れを資料・教科書を元にしながら授業計画（シラバス）を作成していく。学生が各授業科目の準備学習等をスムーズに取り組めるよう講義目的、授業内容、使用教材、評価基準、各回の授業内容の詳細と使用教材・物品を記した授業進行表、実務経験のある教員による授業科目についてはその旨を記載したシラバスを各科目担当者が策定し、その内容を教務主任が精査している。前年度末（3月末）までに各科目担当者によるシラバスの策定及びシラバスのホームページでの公表を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学生の平素の成績及び修了試験並び出席日数を総合評価して科目担当者が科目履修の認定を行っている。授業日数の3分の2以上の出席及び各科目において60点以上の評価点をとるという基準に沿って厳正に履修認定を実施している。なお、80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」、59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）という成績評価を与えており、科目の欠席時数が授業時数の3分の1を越えた者は、その科目の履修を認めない。上記の成績評価の方法・基準については学則施行細則としてあらかじめ定められているものである。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 各科目の授業日数及び総実施授業日数の3分の2以上の出席、各学年で修得すべき各科目の総合評価点が基準点（60点）以上であること、加えて卒業判定については卒業試験の得点が国家試験判定基準を満たしていること等が卒業・進級判定基準の内容であり、この基準に沿って職員会議の議を経て、厳正に卒業・進級判定を実施している。</p>
学修支援等
<p>（概要） 通常の授業以外に、学生への綿密な生活・学習指導を行うためのクラス担任制度、国家試験合格に向けた授業外の補習授業、就職活動を支援するための職域担当職員の配置等を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	5人 (83.3%)	1人 (16.7%)
(主な就職、業界等) 病院、接骨院			
(就職指導内容) 個人面談、就職ガイダンス、面接練習指導等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師、JATI 認定トレーニング指導者資格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	3 人	15.8%
(中途退学の主な理由) 体調不良、進路変更、仕事の都合等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 長期欠席者及び成績不良者には、補講時間を定め、練習問題のプリントを中心とした補講授業を行うとともに、学科長及び担任を中心として三者面談を行い、日常生活を見直す機会を設け、学習状況を調査した上で、学生と共に解決策を導くように心掛けている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		専門課程	介護福祉学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2108 単位時間	1020 単位時間	600 単位時間	488 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2108 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		39人	0人	3人	3人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要） 授業科目に基づき、適切な指導を行える教員を配置し、前・後期や通年の授業の流れを資料・教科書を元にしながら授業計画（シラバス）を作成していく。学生が各授業科目の準備学習等をスムーズに取り組めるよう講義目的、授業内容、使用教材、評価基準、各回の授業内容の詳細と使用教材・物品を記した授業進行表、実務経験のある教員による授業科目についてはその旨を記載したシラバスを各科目担当者が策定し、その内容を教務主任が精査している。前年度末（3月末）までに各科目担当者によるシラバスの策定及びシラバスのホームページでの公表を行う。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要） 学生の平素の成績及び修了試験並び出席日数を総合評価して科目担当者が科目履修の認定を行っている。授業日数の3分の2以上の出席及び各科目において60点以上の評価点をとるという基準に沿って厳正に履修認定を実施している。なお、80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」、59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）という成績評価を与えており、科目の欠席時数が授業時数の3分の1を越えた者は、その科目の履修を認めない。上記の成績評価の方法・基準については学則施行細則としてあらかじめ定められているものである。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要） 各科目の授業日数及び総実施授業日数の3分の2以上の出席、各学年で修得すべき各科目の総合評価点が基準点（60点）以上であること、加えて卒業判定については卒業試験の得点が国家試験判定基準を満たしていること等が卒業・進級判定基準の内容であり、この基準に沿って職員会議の議を経て、厳正に卒業・進級判定を実施している。（さらに介護福祉学科では、専門学校の卒業に必要なとってくる「学力評価試験」【介護協主催】での125問/60%以上の得点を取ったものが卒業条件となる）</p>	
学修支援等	
<p>（概要） 通常の授業以外に学習面において理解度が十分ではない学生に対し、放課後に補講を行い、理解を深めていく支援を行っている。</p>	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	16人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 病院、介護施設等			
(就職指導内容) 個人面談、Job café、面接練習指導等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 住環境コーディネーター資格、初任者研修 レクリエーションインストラクター資格、介護福祉士			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	1 人	3.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 長期欠席者及び成績不良者には、補講時間を定め、練習問題のプリントを中心とした補講授業を行うとともに、学科長及び担任を中心として三者面談を行い、日常生活を見直す機会を設け、学習状況を調査した上で、学生と共に解決策を導くように心掛けている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
柔道整復 学科	200,000 円	1,040,000 円	180,000 円	実験実習費・施設設備費
介護福祉 学科	200,000 円	960,000 円	120,000 円	実験実習費・施設設備費
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
大川学園大川二郎奨学金 (条件: 3月の年度末試験を基準に選考、各学科・各学年・在籍人数の5%程度 減免額: 授業料免除 100,000 円)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ohkawa.jp/情報公開/自己点検評価/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>【目的】</p> <p>① 本校における教育活動や学校運営に関する評価を実施し、その結果に基づき改善を図り、社会に必要な医療・介護人材につとめる。</p> <p>② 自己評価結果に基づき実施する学校関係者評価及びその結果公表等、関係者に対して適切に説明責任を果たす。</p> <p>【評価項目】</p> <p>① 教育理念・目的 ②学校運営 ③教育活動 ④学習成果 ⑤学習理念 ⑥教育環境 ⑦学生募集 ⑧財務 ⑨法令等の順守</p> <p>【構成】</p> <p>校長が、学校関係者評価委員 5 名を選任する。委員の構成は関連企業 2 名、卒業生 1 名、地域 1 名、高校等 1 名とする。自己評価結果に基づき、5 月・翌年 3 月に学校関係者評価委員会を開催し、結果を学校関係者評価委員に報告する。</p> <p>【活用】</p> <p>学校関係者評価委員会は、学校理念を踏まえ、教育活動や学修成果、学生支援や学生募集等を客観的に評価し助言することで、学校の適切な教育提供に結びつくよう努める。また、学校はこの評価や助言を受けて、目標設定、実行、評価、改善の P D C A サイクルに基づいた分析や検証を実施し、校長が責任者として次年度 4 月からの学校運営改善に取り組む。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
飯能市下加治自治会長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	近隣自治会長
芳友会 (同窓会) 会長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	卒業生
社会福祉法人靖和会 特別養護老人ホームつつじの園施設長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	関係業界

さくら野整骨院院長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	関係業界
学校法人大川学園 大川学園高等 学校学校長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	高校等
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ohkawa.jp/情報公開/学校関係者評価/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ohkawa.jp/
--